

# 投資環境の見通し（2026年4月）

## 国内株式

もみ合い

<b>株価上昇要因</b>
中東紛争の早期終結 堅調な企業業績
<b>株価下落要因</b>
中東紛争の長期化 企業業績の悪化



1か月の予想レンジ 日経平均株価：51,000円～61,000円

国内株式市場は、中東情勢をにらみ、もみ合う展開が予想されます。紛争の長期化は、原油価格高騰が景気や企業業績に悪影響を与え、引き続き株式相場の下落要因となると考えられます。一方、紛争が早期解決に向かえば、投資家の不安心理が緩和され、株式市場は買い戻しが優勢となり、反発が予想されます。

## 国内金利

もみ合い

<b>金利上昇要因 (債券価格下落要因)</b>
国内インフレ圧力の高まり 日銀の追加利上げ
<b>金利低下要因 (債券価格上昇要因)</b>
世界経済の減速 日本経済の減速



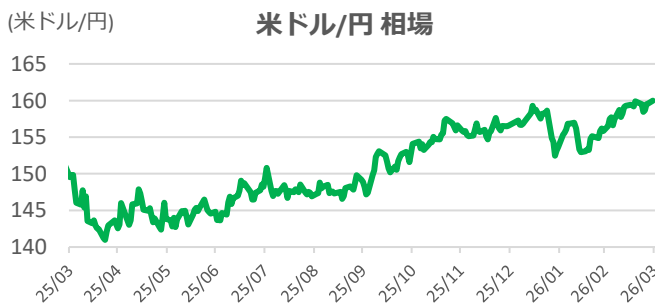
1か月の予想レンジ 日本10年国債利回り：2.1%～2.5%

国内長期金利は、原油価格高騰に伴う世界的なインフレ懸念の高まりが、日銀の利上げ観測を高め、金利の上昇を促す大きな要因となっており、引き続き中東情勢と日銀の金融政策の行方をにらみながら、2%台前半を中心としたもみ合いが予想されます。

## 米ドル/円

もみ合い

<b>米ドル上昇要因 (円安要因)</b>
米景気好調維持 中東紛争の長期化
<b>米ドル下落要因 (円高要因)</b>
日銀の追加利上げ 中東紛争の早期終結



1か月の予想レンジ 米ドル/円：153円～163円

中東情勢の不安定化が「有事のドル買い」圧力として働く一方、利上げ路線を継続する日銀の金融政策姿勢や、為替介入（円買い・ドル売り）への根強い警戒感が過度な円安の壁となり、ドル円相場は150円台後半を中心にもみ合う展開が予想されます。

※ 上記矢印は相場の方向性を示しています。

出所：QUICKのデータをもとに中銀アセットマネジメント作成

**【本資料のご利用にあたっての注意事項等】**

■当資料は、投資環境に関する情報提供のみを目的として、中銀アセットマネジメント株式会社（以下、「当社」という。）が作成したものであり、特定の有価証券への投資を勧誘・推奨するものではありません。また、当社が設定・運用する各ファンドの投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。■当資料は金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。■当資料に掲載しているグラフ、データ等は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。■当資料に示す意見等は作成日現在のものであり、将来の市場環境の変動または運用成果を保証するものではなく、将来予告なしに変更する場合があります。■当社は当資料に含まれる情報から生じるいかなる責務（直接的、間接的を問わず）を負うものではありません。■当資料に記載されているベンチマークインデックスの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。

中銀アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 中国財務局（金商）第10号  
加入協会 一般社団法人資産運用業協会